

民間教育関連機関 ヒアリング調査結果

【調査対象】

区内に校舎・教室のある学習塾・予備校等を運営する A～G の 7 事業者

【調査の種類】（1 種類）

公立中高一貫校受検の指導に関する調査

【調査期間】

令和 5 年 4 月 2 8 日～5 月 1 2 日

【調査方法】

調査対象の民間教育関連機関に電話で調査を依頼し、その後、メールでヒアリングシートを配付、回収を行った。

【その他】

掲載の都合上、文意を損なわない範囲で要約や表現の変更を行っている場合がある。

公立中高一貫校受検の指導に関する調査

1. 都内の公立中高一貫校の受検のための対策コース

	都内の公立中高一貫校全般に 対応した対策コースがある	都立中高一貫校の学校ごとに 特化した対策コースがある	千代田区立九段中等教育 学校に特化した対策コースがある	都内の公立中高一貫校に 対応した対策コースはない	その他
A社		○	○		
B社				○	
C社			○		○
D社					○
E社				○	
F社	○	○	○		
G社	○	○	○		

「その他」 の内容	C社 (都立では、九段中等と小石川中等の対策コースを設置)
	D社 (都立では、小石川中等の対策コースを設置)

2. 区立九段中等教育学校の入学者決定において男女別定員を撤廃した場合、児童に受検指導をする上での影響

ある	—
ない	B社
	C社
	D社
	E社
	F社
	G社
その他	A社 (合格ラインが上がるなら学力(内申点)を上げる指導をするが、進路指導の考え方が大きく変わることはない)

3. 現在、区が検討している区立九段中等教育学校の令和6年度以降の入学決定における男女別定員の撤廃についての意見等

■ A社

受験生、保護者ともに要件の見直しには敏感になっており、各家庭の反響が予想される。
男女別定員の撤廃は、女子からは歓迎され、男子からは敬遠されると思われる。

■ B社

当社の生徒で九段中等に進学する男女比はほぼ半々で、成績の男女差もほとんどない。LGBTQへの配慮からも男女の区分撤廃には賛同する。

■ C社

一般的な見解どおり、女子の合格者が増えると思われる。
男女比のバランスが一度崩れると、男子が受検を敬遠し、女子校化が危惧される。
「教育の場」との視点では、男女別定員を維持してもでもよいのではないかと考える。

■ D社

- ・女子の志望者数が男子の志望者数を上回る状況が定着している。成績的にも、女子の方が優秀な児童が多い状況である。
- ・単純に成績順で入学決定を行った場合、女子の入学人数が、男子の入学人数を上回ることが考えられる。
- ・現状の男女別定員の場合、女子の方が倍率が高く不公平な状態と捉えるならば、男女別定員を撤廃し、男女とも同じ条件での入学決定を行うべきであり、共学校として男女同数で運営することが、合理的な差別を実施しつつ男女の平等を守ると捉えるならば、男女別定員を撤廃する必要はないと考える。

■ E社

当社の生徒のほとんどは私立中高一貫校を受験する。私立中高一貫校の共学校の多くは、男女別定員を設けておらず、男女別定員が撤廃されたとしても、大きな影響はないと考える。

■ F社

九段中等における区分Bでは、例年男女間で倍率の差があった。そのため、男女別定員の有無による合格者の差異は一定程度現れると考えられる。前年までであれば合格だったのに…と泣く受験生を出さないよう、しっかり鍛えて生徒たちを送り出していきたい。

■ G社

男女別定員の撤廃について異議はない。
当校の生徒は女子の方が力がある傾向であり、これまであと一步のところまで不合格となった女子生徒にとって、合格できる可能性が広がると捉えられる。